

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.129

2010/08/20

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 沢コース解禁



沢沿いコースを湿原に向かう来訪者(10/08/16)

既号にも折に触れ「沢コース」について本紙にも取り上げてきたが、昨年新しく整備を始めた「沢コース」も、その後改良を加えて 8 月 16 日実施した「西浅井観光協会」主催のハイキングで正式に使用を始めた。従来は、尾根コースの往復しか無かったのだが、沢コースの解禁で往路と復路の観察の幅が広がることになる。ただこのコースには、木橋が 5 箇所と沢際の露岩（濡れていることが多い）加えて、滑り易い等難点も多いので利用には十分な注意が必要である。また雨及び雨後には木橋は特に滑り易いので、他人を案内する時等は特に注意する必要がある。このコースを下山時に使うときは、疲れていることもあり最深の注意が必要。この注意点を念頭にすれば最高のコースです。コース中には大小様々な滝もあり、水音が常に聞こえるという心休まるコースです。この道は、1960 年代までの炭焼き道です。湿原と楽舎のほぼ中間地点に老杉があります。古老に聞くと、炭や薪を背負って降りてくるときこの地点で一息入れたそうです。

**猪害対策** 毎年1・2 回付属湿地にシカやイノシシが侵入しています。今年もサギソウがピークを迎えた 8 月 8 日侵入され、ミツガシワの地下茎やサギソウの群落の一部を掻き回しました。このまま放置すると全域を荒らされることは必至と防御の波



老杉



イノシシが掻き回した付属湿地(10/08/08)

板やネットを竹端会長のご厚意で資材を貰い設置しました。設置当初は無粋と感じましたが、日々見ていると慣れもあってそれほど見苦しくはありません。ただ楽舎への入口も波板でドア状のものを設置したのがやや難点です。



猪害防御ネット設置(10/08/09)



## 保全作業は年中無休

『里山』の生物多様性を保全するという活動の大変さを日々感じさせられます。「保



観察コースの草刈 (10/07/15)



トクワカソウ群落の整備 (10/07/23)



沈砂地修復 (10/07/18)



沈砂地修復 (10/08/18)



南部湿原脇草刈 (10/07/24)



北部湿原ササ刈り (10/08/03)



沢コース整備 (10/08/17)

年毎年同じ作業を繰り返す、問題が発生すればすぐに対処するという保全体制の確立が必要ですが、何せ対象面積が広いので課題は山積みです。

**多彩な訪問者** 今年はまた訪問者が一段と多彩になってきました。他府県からの小学校の野外活動での訪問は初めてのことでした。地域の保全活動グループの視察・観光目的以外の研修団体も増加してきました。このような多彩な訪問者の増加は、この森の多様性が惹きつけているのでしょうが、これらの訪問者に対応するのも限度があります。最大の課題は、ガイド担当者不足です。ガイドをする一方で前述の保全作業や調査活動も進めなければなりません。また夏の猛暑時期はこれまで訪問者が

少なかったのですが、日々少数ながら訪問者が続いています。特に親子連れが増加してきたことはうれしいことです。

**勿論調査も続いています** 最近の調査は、ササユリの金網設置の効果調査（一定の効果が認められた）・カエントケ発生調査（8月18日現在発生無し）・ナラ枯れ調査（極少数）・希少種生育保護地調査（サギソウ分布の移動・ヒツジグサの群落縮小・ミツガシワの猪害）・ブナの生育調査・サワラン（湿原育種中の現況調査）などを行いました。



大阪の小学生の野外活動 (10/07/20)